



主な内容

- 7月豪雨災害の義援金を受付中……………2面
- 塀の調査・改善にご協力を……………2面
- 被爆73周年平和祈念式典のご案内……………2面
- うなぎちカップ参加者募集……………3面
- 骨粗しょう症検診の申し込み……………4面
- 児童扶養手当の現況届を忘れずに……………5面
- 小学校へ入学するお子さんの健康診断……………6面

私たちが平和のバトンをつなぐ

若い世代の取り組み

■広島・長崎派遣中学生リレー講座「未来を生きる子どもたちへ」…「8月6日と8月9日は何の日か知っていますか？」戦後70年を過ぎ、この答えを知らない子どもたちは増えています。一方で、当時のことを体験談として語り継ぐ戦争や原爆の体験者は、年々少なくなっています。そのような中、市では、歴代の派遣中学生が取り組む「リレー講座」によって、平和のバトンがつながり始めています。 企画課・内線568

「原爆を落とされた国は世界にいくつあると思いますか。」答えは一か国、日本だけだと聞いて驚く小学生もたくさんいます！歴代の派遣中学生が広島・長崎で感じたことを自分の言葉で子どもたちへ伝えています。



第一小学校でのリレー講座 (左)吉田さん(中学3年生) (右)橋本さん(大学3年生)



第三小学校でのリレー講座 (左)温井さん(高校2年生) (右)川合さん(大学2年生)

戦争や原爆について学んだあとは、「平和なこと」「平和じゃないこと」をみんなで話し合います。学校に通えること、ごはんを食べられること。平和は身近なところにあるということに気づきました。

平和の大切さを感じた子どもたち。一人ひとりが「平和な世の中をつくるために自分ができること」を平和の葉っぱに書きました。葉っぱには「友達と仲良くする」「相手を思いやる」など、平和につながる言葉がたくさん書かれました。



平和の葉っぱを集めて「平和の木」が完成します

6年生のみなさん「リレー講座」は、どうでしたか。校庭を走らないリレーでした。何をリレーしたのかわかりましたか。そう、「平和を願う心」を伝えるリレーでした。みなさんは、今日、派遣中学生から「平和のバトン」を受け取りました。受け取ったバトンは、次の人に手渡さなければバトンになってしまいます。みなさん、あなたが聞いた今日の話を、次の人に伝えましょう。平和のリレーが、ずっとつながって平和になるようにね。 我孫子市に住んでいる被爆者のおばさんより

リレー講座を受講した小学生へ、被爆者の会からのお手紙を届けます。

「こども・若者サミット」に参加しました

今年3月には、千葉市主催の「こども・若者サミット」で、学生たちがリレー講座の事例発表を行います。サミットに参加した県内各市の市長をはじめ、多くの来場者の注目を集めました。

手賀沼公園 平和祈念碑マップ

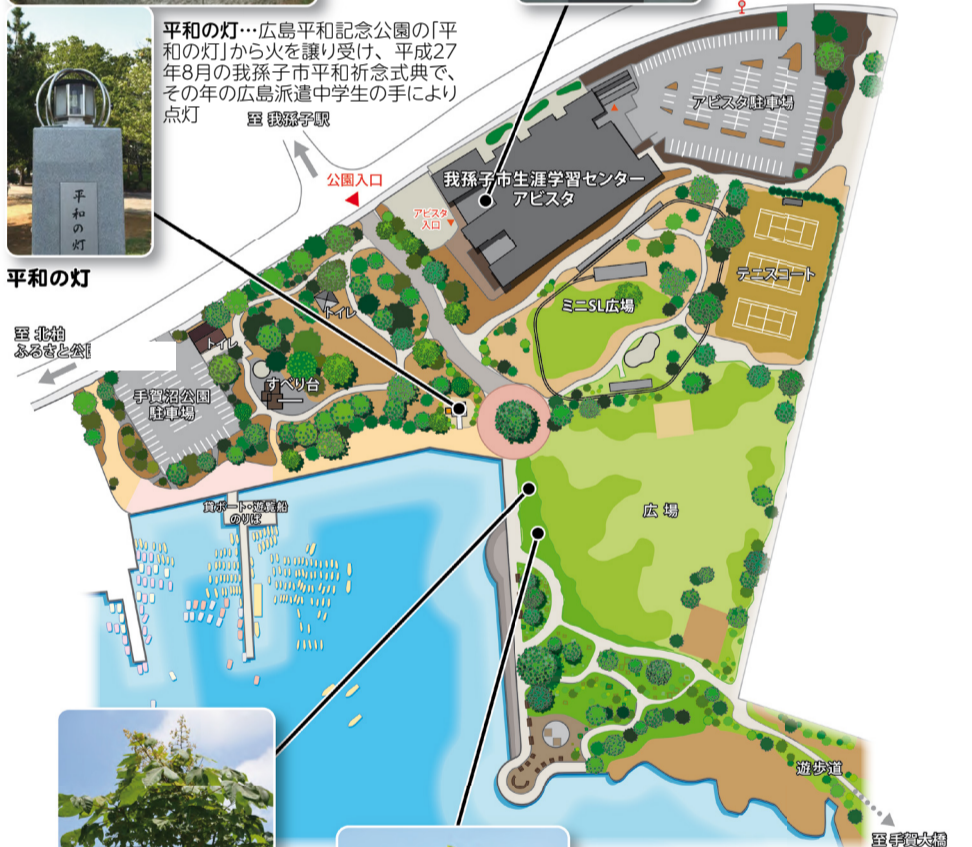
平和の記念碑 昭和61年8月6日建立



陽光桜…平成28年1月、我孫子市原爆被害者の会の手により植樹



禎子鶴…原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんが折った鶴。平成27年12月に寄贈され、アビスタ1階にて常設展示中



平和の灯



平和の灯…広島平和記念公園の「平和の灯」から火を譲り受け、平成27年8月の我孫子市平和祈念式典で、その年の広島派遣中学生の手により点灯



被爆アオギリII世



被爆クスノキII世

平成24年8月、広島市から被爆アオギリII世(左)、長崎市から被爆クスノキII世(右)の苗木を譲り受け、その年の長崎派遣中学生の手により植樹

平和の大切さを 伝えていきます

我孫子市長 星野 順一郎



市内全小学校で行われているリレー講座は、今年で4年目を迎えました。昨年は、講座をきっかけに派遣を希望し、広島へ行った中学生もいました。リレー講座は、若い世代が平和のバトンをつないでいく大切な取り組みです。今後も、我孫子市原爆被害者の会や平和事業推進市民会議、そして子どもたちとともに、平和の大切さを進めていきます。

そして、彼らの先輩にあたる歴代の派遣中学生が、広島・長崎で直接聞いた被爆者の思いを自分たちの言葉で伝えていこうと、戦後70年をきっかけに立ち上がり、「広島・長崎派遣中学生リレー講座」が始まりました。

今年も中学生派遣事業として、市内の中学生12人が8月5日から3日間広島へ行き、平和の尊さを学ぶことになりました。